

モモンガ

モモンガは昼の間は多く枯木のホコラの中などにはいつて眠っていて夜になると活動を始める。前後の足の間に皮のまくがあつて、これをひろげて空中を滑走する、空中で自由に方向をかえる事も出来る。北海道には特産のエゾモモンガがかなり多く住んでいたのであるが、昼は人目につかないので案外おそくまで知られなかつたという。

木から木へと空中滑走をするので新雪のあとでもウサギやキツネのような足跡を残さず、自分の寝ぐらを足跡で敵に教えるようなことは決してない。

また野生動物には珍らしく発情期が決つていないので一年中のべつまくなしに子を産みつけ、吹雪のなかでも平気で繁殖している。ムササビはモモンガよりずっと大きく皮のまくも発達していて百八十キロも空中滑走する事があるという。

モモンガとムササビの差は専門的にはいろいろ違いがあるが、分りやすいのは大きさで、その差は

ムササビ

モモンガ

体長 三五―四九 cm

一五―二〇 cm

尾長 二八―三九 cm

九五―一五 cm

尾の形 円筒形

扁平

耳に毛の総あり

なし

とあり、共にリス科の動物で毛は特殊な筆や刷毛に使われる